

## 2 視察総括

団長 新田 茂美

### 【視察訪問の経緯】

本市では、平成 10 年にニュージーランド マスタートン市と姉妹都市提携を行っており、今回のハワイ郡との姉妹都市は、令和の時代になって初めての提携となったものである。

これまでの経緯であるが、平成 18 年 5 月、廿日市商工会議所とハワイ郡コナ・コハラ商工会議所が姉妹提携を締結して以降、商工会議所間の交流事業は継続されていた。こうした中、令和 5 年 3 月にミッチ・ロス郡長夫妻が市長を表敬訪問され、5 月に廿日市商工会議所を通じて本市とハワイ郡の自治体同士の姉妹都市提携の打診があった。令和 5 年 11 月 13 日、ハワイ郡長の代理としてアーサー・タニグチ氏らが本市を表敬訪問され、姉妹都市提携に向けた申入れを受けた。正式な申入れを受けたことにより、令和 6 年 4 月 15 日、ハワイ郡からの訪問団に本市を訪問していただき、ウッドワンさくらびあ小ホールにおいて、本市とハワイ郡との姉妹都市提携協定書に調印した。

同年 4 月 26 日、市長から議会に対し、ハワイ郡視察訪問事業の計画が示されたため、議会運営委員会等での協議を経て、本市議会からも視察団を派遣することとした。

### 【事前研修】

ハワイ郡とは、明治時代以降、本市から移民として渡航された人が多いという歴史的な背景があり、また、両自治体は、ともに世界遺産を有していることや、海から山までの豊かな自然に恵まれていること、農業

や水産業が盛んであることなど共通点が多くある。令和6年8月19日、今回の視察訪問が有意義なものとなるよう、また、議会全体で視察テーマを検討するため、国際交流の意義やハワイの文化、移民の歴史などについて理解を深めることを目的に、全議員を対象に現地情報に詳しい外部講師による事前研修会を実施した。

今回の議員派遣は、新たな海外派遣要綱での初めての海外視察であったが、大きなトラブルや事故も無く無事に終了し、また、3泊5日の限られた日程の中で所期の目的を概ね達成出来たものである。

今回の議員団の派遣目的は、本年4月に本市へ訪問していただいたことに対する答礼、そして、姉妹都市との友好親善並びに相互理解を深めるとともに、文化、経済、都市事情その他必要な事項を視察調査し、国際性の涵養と資質向上に務めその成果を市政の発展に寄与することである。

今後、市がハワイ郡と姉妹都市提携を結んだ内容に沿って議会に対して提案されてくる交流事業や取組等に対し、議会としての判断を行う上で適切な審査、協議及び判断が出来るものと考えている。

視察訪問先のハワイ郡のメンバーであるハワイ郡の議長、副議長及び女性議員の3名とは、昨年及び本年の本市への訪問を含め3度目の交流機会であり、リラックスした中で有意義な視察ができた。

さらに、到着当日は、空港で郡長夫妻をはじめ多くの人に暖かい出迎えを頂き、長時間のフライトによる疲れも忘れ、ハワイの気候と同様に晴々とした良い気持ちで現地での視察をスタートさせた。

以降日程に準じて施設ごとに総括する。

## ◎ 1 日 目

ハワイ島ヒロ空港到着後、専用車により早速最初の視察先であるハワイ日系人会館に移動した。

### 「ハワイ日系人会館」

館長さんからは、本市から多くの人がハワイ島へ移住した日系移民の歴史、移住後の生活の様子やそれを取り巻く環境についての説明を受け、そのご苦労や生き抜くために取り組んでこられたことに深く感銘を受けた。



ハワイ日系人会館

また、この施設には、現地のコミュニティーから寄贈された日本とまったく同じおもちゃ、服、道具などの展示物があり、遠く離れたハワイにあっても故郷と同じ習慣や生活を大切にされていたことに改めて感じるところがあった。これらは、今もなお大切に保管・展示され、日系1世の皆さんの当時の思いは、日系2世、3世の時代になっても受け継がれている。



ハワイ日系人会館内における説明の様子

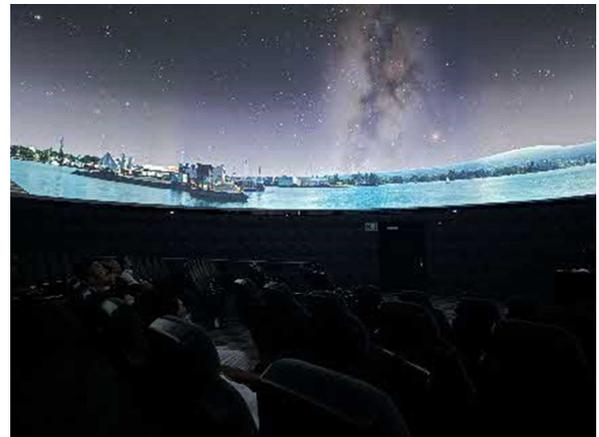


ハワイ日系人会館内展示物

視察を通じて、本市とハワイ郡の歴史的なつながりの深さと、第二次世界大戦下の日系移民の苦難をベースとした平和の大切さを改めて感じた。また、言葉や文化の異なる環境下で、どの様に人や社会との関係性を築いたかを学ぶことは、今後の本市における多文化共生社会の実現に向けて大いに参考になるものと思われる。

### 「イミロア天文学センター」

次に訪問したハワイ大学ヒロ校内にある「イミロア天文学センター」では、当地の説明や多くの体験型展示や3Dによる立体的なショーが見られる最新型のプラネタリウムもあり、どれも大変素晴らしいものであった。



3Dによる映像（プラネタリウム）

また、この施設には、島固有の植物が見られるネイティブガーデンも併設されている。

ハワイ諸島は今から約500万年前の海底噴火による海底隆起の後プレート移動で各島が作り出され、大小132の島々で構成され、ハワイ島は、ハワイ諸島の他のすべての島を合わせたものより大きい最大の島である。

「イミロア天文学センター」の「イミロア」とは、ハワイ語で「探検者、探求」の意味であり、かつて天体を頼りに遠くミクロネシアから渡航をして来た人々が使



イミロア天文学センター  
視察派遣者一同

していた伝統航海カヌーホクレア船の復元・展示もあり歴史を感じた。  
また、ここが世界でも有数の天体観測の地であるのもわかる気がした。

### 「すばる望遠鏡」

標高 4,200mのマウナケア山頂は、気圧は平地の3分の2しかなく、地上の天候システムに影響されない高さにあるため、快晴の日が多く、乾燥し、貿易風がハワイ諸島上空を滑らかに吹き、雲が山頂まで上ってくることは稀とのことである。近くに大きな都市もなく、天体観測を妨げる人工的な光はほとんどないことから、天体観測に最適な場所の一つとして知られ、マウナケアの山頂域に設置されたこの望遠鏡に使用されているレンズは直径 8.2mもある、一枚物のレンズでは世界最大とされ、日本製とのこと、ここにも日本の技術が発揮されていた。

### 「歓迎レセプション」

ハワイ郡主催で行われた歓迎レセプションは、ホテルのエントランスで地元和太鼓のメンバーによる演奏で始まった。勇壮で息の合った演奏は日本のものに勝るとも劣らぬもので、ハワイでも珍しいのか、一般のホテル宿泊客も見入っていた。

レセプションは、ハワイ郡長夫妻をはじめハワイ郡議会議長夫妻、日本国名誉領事、ハワイ郡内の2つの商工会議所及び地元広島県人会など総勢 90名が参加する盛大なものであった。私は、ハワイ郡の議長夫妻、女性議員、地元広島県人会の方々と同席させていただき、昨年及び今年、本市を訪問いただいた際のお礼を伝えた。

市長による本市のプレゼンテーション及び本市とハワイ郡による記念

品交換の後、本市議会を代表して挨拶を述べた後、ハワイ郡議会議長に記念品としてお砂焼きの花瓶とペアカップを贈った。その際には、お砂焼きの説明も行い、本市の特産品の一つであるお砂焼きのPRを行い、郡議会議長さんには、大変喜んでいただいた。

さらに、ここでは、本市から同行した浅原在住の藤井さんによるけん玉パフォーマンスもあり、それは大変すばらしく、帯同していただき大変良かったと感じた。和やかな雰囲気の中で、レセプションが行われ、本市とハワイ郡が相互理解のもと友好親善を図る上で、有意義な時間を過ごすことができた。



ハワイ郡議会議員及び  
廿日市市議会議員一同



ハワイ郡議会からの記念品贈呈

## ◎ 2 日 目

### 「ハワイ火山国立公園」

「ハワイ火山国立公園」のあるキラウエア（Kilauea）は、標高は1,250mの今なお活動を続けている活火山で、ハワイ諸島のハワイ島を構成する5つの楕状火山の1つ。島の南東部に位置し、西隣のマウナロアと共にハワイ火山国立公園に指定されている。この公園は、敷地全体が世界遺産に登録されており、2018年5月の大規模な噴火により以前にも増してさらに拡大した壮大な景色や歴史を物語る不思議な形状の溶岩台

地はここでしか見られない絶景である。現在、火山活動は安定期に入っているとの説明のとおり、火口には少し噴煙が上がっているだけで、テレビで見る真っ赤な溶岩がとめどなくドロドロと流れ出るイメージとはかなり違っていた。ハワイ島特有の植物オヒア以外はほとんどなく果てしなく溶岩台地が続いている。下山の途中、噴出口スチームベントに立ち寄ったが日本のような硫黄臭さはなく本当の蒸気が噴き出ているだけであった。

キラウエア・ビジターセンターからは、徒歩で公園内を散策し、ハワイ島固有の植物、シダの一種が大きく成長しては倒れ、またそこから芽が出て成長する過程が手に取るように理解できた。

公園内にあるボルケーノ・ハウスは公園内唯一の宿泊施設である。本来、公園内には宿泊施設は建設できないが、この宿泊施設は、公園に指定される以前に建設されたホテルであったため、現在も変わらず営業をしている。このホテルは、自然の中にマッチした落ち着いた色合いや形態で、都会のホテルとは違い自然を楽しむ宿泊客のためのものである。その日のホテルからの景色は、ちょうど虹もかかりより一層神秘的であり、筆舌に尽くし難いものであった。こうした自然を生かした宿泊施設の状況は、本市が現在検討している各種事業の参考になりそうである。



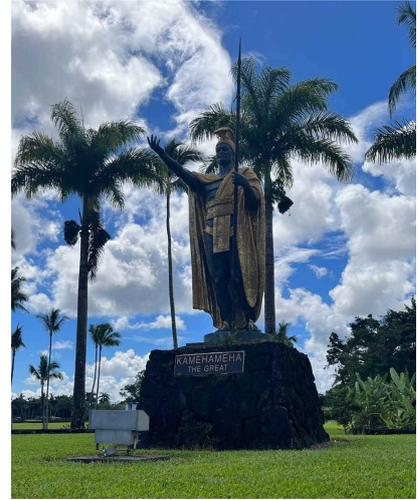
ハワイ火山国立公園内における説明の様子



ハワイ火山国立公園内宿泊施設

### 「カメカメハ大王像」

次に、マウナケアを下山し、ハワイ島の代表的な観光資源の一つである「カメハメハ大王像」を視察した。ハワイ諸島を統一したカメハメハ大王の像は、ハワイ州内に数体あり、そのうち、ハワイ島には、大王の故郷であるカバアウ、ワイロア川州立公園及びヒロの3像がある。ヒロの大王像は1997年に建立された比較的新しいものである。



カメハメハ大王像

### 「K T A（日系スーパーマーケット）」

次に、視察した「K T A」は、ヒロに本社を置く会社で、ハワイ島全体に同島最大のスーパーマーケット・チェーンを展開している。この会社は、1916年にハワイ島ヒロに、本市旧地御前村出身の日系人であるコーイチ アンド タニヨ タニグチ (Koichi & Taniyo Taniguchi) 氏が仲間と小さな食料品店を設立して、顧客に品物を届けたことから始まり、その後発展して、現在は6店舗を展開するようになった。地元産の食材やハワイらしい雑貨、定番のハワイ土産など、なんでも揃うほか、日本の食材も多く取り揃えており、地元で愛されるスーパーマーケットである。

今後、本市にゆかりある日系人が多く暮らすハワイ郡と本市の商業者間の連携や交流が盛んに行われ、共に発展できるような取組みがさらに重要となると感じた

## 「アイランダー日本酒醸造所」 「コナ・コハラ広島県人会主催昼食会」

アイランダー日本酒の醸造者の高橋千秋氏は、山梨大学で醸造学を学び、准教授として大学で酒造りを教えたほか、酒類総合研究所に勤務するなど、醸造研究家や醸造コンサルタントとして活動した。彼女は、「日本酒もワインのように海外で作られるようになれば、海外でも日本酒を愛する文化が広がり世界的な市場になる」とのビジョンを掲げ、2020年3月にハワイ州オアフ島ホノルル市郡ココアコに「Islander Sake Brewery（アイランダー・サケ・ブリュワリー）」を開業されたそうだ。紆余曲折を経て、パンデミック直前に開業したハワイの酒蔵『アイランダー酒』は右肩上がりに業績を伸ばし、今後さらに大きく羽ばたこうと夢を追い続けているとのことである。

ここでは、コナ・コハラ広島県人会主催の昼食会も開催された。

地元で養殖された魚介類を用いた料理とアイランダー酒が用意され、地元広島県人会の皆さんと交流したが、ここでの交流は、今後推進する本市とハワイ郡との市民間交流の礎を築くことができたのではないかと思っている。



アイランダー日本酒醸造所  
視察派遣者一同

会場からは、十分に手入れをされたゴルフコースも一望でき、リゾート感十分の環境は、ハワイ郡の大きな観光資源であると感じた。

昼食会場からコナのホテルへの移動途中、ヘリポートがあったが、これは、一人5～6万円ぐらいで火山や島の絶景を上空から楽しむヘリコプターツアーの基地として使用されているとのことである。日本ではあ

まり見かけない光景であるが、ここハワイでは需要があり運営可能なのであると思われるが、日本とは環境面や条件面などに違いがあると感じた。

### 「ビッグアイランドアバロニ、ブルーオーシャン養殖場」

次の視察地である「ビッグアイランドアバロニ、ブルーオーシャン養殖場」では、海洋深層水を汲み上げカンパチやアワビの養殖を行っている。魚介類などの限られた資源を確保するうえで、捕獲から養殖への移行は今後の食材確保には欠かせないものである。良質で安定した栄養素を確保する手立てとして、海底 3,000 フィートの深海の冷たい海洋深層水と、温かい手つかずの表層海水を毎分 10 万ガロン供給し循環する設備が必要であり、さらに、魚を各カテゴリーごとに移動していく水槽、ある程度大きくなった魚を天然の環境で育てる海洋水槽など、設備投資にかなりの費用がかかるとのことである。



ブルーオーシャン養殖場内の水槽



水槽内のカンパチ

アワビはエサの海藻の飼育や、アワビの飼育に時間がかかり、市場に出すのに最低 5 年かかるなど、今はまだ利益の得る状況ではないとの説明があった。しかし、今後天然物のアワビはほとんどいなくなり捕獲で

きなくなることが予想されることから、この養殖業は期待が持てると確信しているとのことであった。



ビッグアイランドアバロニ内の水槽



水槽から揚げたアワビ

### 「ディナーレセプション」

引き続き、アバロニ、ブルーオーシャン養殖場の施設内のバーベキュー広場にてディナーミーティングが行われた。参加者は、本市視察訪問団、廿日市商工会議所、そしてハワイ郡からは郡長夫妻、郡議会議員、東ハワイ広島県人会及び見学施設の関係者であった。ハワイ郡議会のイナバ副議長による食事前の感謝の歌を全員で手を繋いで聴き、食への感謝の意を表した。日本でも食事前には合掌をするが、作法も文化の違いで色々であると感じると同時に、こうした体験が出来たことは多文化を理解する上で貴重な機会となった。

ここでは、初日のレセプションで渡すことのできなかつたハワイ郡議会議員の皆さんへ本市議会から用意したお砂焼きの説明を行った後、視察団3人でペアカップをそれぞれ手渡した。限られた時間



レセプション時の議長挨拶

ではあったが、1日目同様、有意義な時間を持つことができた。文化の違いもあるが、現地では、このようなセレモニーの場合は、同伴者と共に出席する習慣があり、こうした文化の違いを理解することは、これから多文化との共生を行っていく上で大いに参考になると感じた。

### ◎ 3 日目

#### 「グリーンウェル・ファーム（コーヒー農園）」

コナ地区で有名な特産品の一つであるコーヒーの農園「グリーンウェル・ファーム」を視察した。ここは、コナでは最大級、そして最古のコーヒー農園の一つで、創業は1850年、170年以上商売を続けている老舗とのことである。



グリーンウェル・ファーム  
視察派遣者一同

創業者はイギリスからやってきた商人、ヘンリー・ニコラス・グリーンウェル氏。コナは、午前中は偏西風により快晴で天気が良く、午後から夕方にかけて天気が崩れ雨になるという独特の気候であり、この気候を利用してこの辺りには大小100件を超えるコーヒー農園がある。農園のすぐ傍には、ヘンリーが1870年に建てた店、H. N. グリーンウェル・ストアが博物館として保存されている。ここで出迎えてくれたのは10種類のコーヒーで、それぞれローストの仕方で味が異なり、改めて奥の深さと、技術の高さを感じた。試飲後農園内の見学に移り、工程ごとに順を追って見学をさせていただき、加工機械の中には日本製（サタケ）の機械もあり日本の技術の高さも改めて認識した。



コナコーヒーの試飲



日本製の加工機械（サタケ）

### 「コナワエナ高校」

次の視察先の「コナワエナ高校」は、ハワイ州ハワイ島のコナ地区に二つある公立高校（9学年～12学年が在籍）の一つで、サウス・コナ地区のケアラケクアにあり、サウス・コナ地区の子ども達と、ノース・コナ地区の子ども達の一



コナワエナ高校

部も通う高校である。以前は同じ敷地内に小学校、中学校も併設されており、全生徒数が千人を超える時期もあったとのことであるが、小学校はすでに州道を挟んだ高校の反対側の新校舎へ引っ越している。この学校の歴史は古く、歴代の校長先生や有名人には日系人の名前も多く見られた。

高校付近はコナコーヒーで有名な地区であり、1932年から1968年までは、夏休みが他の地区の学校よりも遅い9月から11月までの期間に変更され、生徒たちが家族が栽培するコーヒーの収穫を手伝えるようになっていたそうである。

今回、高校生が体育館で授業しているところにお邪魔し、同行の藤井さんが子ども達の前でけん玉の技を披露する機会があった。その時の子ども達の反響はとてもよく、お土産に持参したけん玉も大変喜ばれていた。その後、3人の子ども達に学校生活や日本の印象などについてインタビューした。

### 「ビジネスランチ」キングカメハメハホテル

次に、コナコハラ商工会議所主催のビジネスランチに参加するため、キングカメハメハホテルへと向かった。ここでは、先日訪問したブルーオーシャン養殖場のブースがあり、現地商工会議所のメンバーによる特産品などのレセプションが行われた。また、ここでは、市長による本市のプロモーションも行われ、私は、実際に地元特産品等を味わいながら、お互いのまちについての理解を深めるとともに、参加者とディスカッションができ、大変有意義な時間となった。

### 「お別れディナー」ロイヤル・コナリゾートホテル庭園会場

ハワイ郡滞在最後の夜となるこの日は、ホテル主催の「お別れディナー」に参加した。会場には、一般の宿泊客もおられ、美しい夕景の中、ここでも藤井さんによるけん玉のパフォーマンスが飛び入りで行われ、本市発祥のけん玉の技が多くの人を魅了していた。また、1日目にお世話になったタニグチさんとヤマナカさんがヒロからわざわざ来られ、今回の視察でお世話になったお礼を伝えるとともに、本市とハワイ郡との今後の交流を約束した。

## ◎ 4 日目

### 「ハワイ郡庁舎のウェスト・ハワイ・シビックセンター」

ホテルのチェックアウト後、専用車でハワイ郡庁舎のウェスト・ハワイ・シビックセンターを訪問し、ハワイ郡の職員に庁舎の案内をしていただいた。訪問が朝早かったかもしれないが日本の行政窓口のように混雑した様子もなく、来庁者も少なく落ち着いた感じであった。



ウェスト・ハワイ・シビックセンター

さらに、ハワイ郡議会のイナバ副議長に議場を案内していただいたが、議場内は、全議員の議席が弧状に並び、その前に執行者が議席に向かって着席する席が2席あるのみで、傍聴者席が多く用意されているなど、日本の議場とは、席の配置や雰囲気などがまったく違うと思った。

### 「エリソン・オニヅカ・コナ国際空港」

帰国の途につくため、ハワイ郡庁舎からエリソン・オニヅカ・コナ国際空港に向かった。ここは、2017年1月にコナ国際空港から名称が変更され、新しい空港名は、ハワイ島コナ出身で、1986年のチャレンジャー号爆発事故により殉職した宇宙飛行士、エリソン・オニヅカ氏に由来している。

市長をはじめとする市長部局職員及び同行したけん玉の藤井さんの協力により、議員視察団は、視察期間中、特に大きな問題もなく全行程を

無事終えることができたことに感謝申し上げます。

また、今回の視察が円滑に進み所期の目的を概ね達成することができたのも、視察先で対応していただいた現地ハワイ郡の関係者の皆様、さらには、現地で合流し、ともに交流事業に参加していただいた廿日市商工会議所の皆様のおかげであり、市議会視察団を代表して深く感謝申し上げます。

今後は、この視察で学んだ知識や体験を議会や市政に反映し、本市とハワイ郡双方の市民間の交流が末永く継続され、ともに発展されるよう議会として支援していくことを誓い、団長としての総括とする。